

2024 年度日本天文学会天文教育普及賞

【授賞者】 村松 修（むらまつ おさむ）・コスモプラネタリウム渋谷/元五島プラネタリウム解説員
【活動名】 プラネタリウムによる天文教育普及への長年の貢献

村松修氏は、東京・渋谷を拠点に長く天文教育普及に貢献したプラネタリウム解説員である。村松氏が長期に勤務した天文博物館五島プラネタリウムは1957年に開館し、2001年の閉館まで、日本における天文普及の中心的な存在として活動した。日本天文学会は、閉館時において、その長年の功績により、同館に特別に感謝状を授与している。

村松氏は、1974年に五島プラネタリウムに採用され、解説員として歯切れの良い解説とテンポの良い語り口で、多くのファンを惹きつけ、彼の解説目当てに訪れる来館者が後を絶たなかった。

五島プラネタリウムが2001年に閉館した際には、同館の多くの天文資料が渋谷区に寄贈され、その管理を担う役割として渋谷区天文資料担当となった。単に資料を管理するだけでなく、五島プラネタリウムが閉館することによって拠点を失った地域の人々のために天文講座や観望会を企画・開催した。村松氏の活動は、2010年に開館した「コスモプラネタリウム渋谷」へと繋がっていった。現在も村松氏はコスモプラネタリウム渋谷のコンサルタントとしてプラネタリウムの投影解説を続けており、多くのファンを魅了し続けている。

また、村松氏は1986年以降、多くの小惑星の発見に携わったほか、1993年には串田・村松彗星を共同発見し、日本天文学会から天体発見賞を受賞している。さらに、同年にはシューメーカーレヴィ第9彗星の木星衝突を指摘し、この功績は中野圭一氏とともに高く評価されている。これらの活動を通じて、村松氏は常に天文教育や観測技術の最前線に立ち続け、それを解説にも生かしてきた。瀬名秀明氏の小説「虹の天象儀」ではストーリーに必要なプラネタリウムに関する事項について著者の取材に丁寧に対応し、作品の厚みに貢献するとともに、村松氏自身も登場人物のモデルとなった。

村松氏の業績は、日本のプラネタリウムを通じての天文学の普及や教育を語るときに欠かせないものであり、その活動に影響を受けて天文教育普及活動を行っている人も多い。村松修氏の半世紀にわたるこれまでの功績を称え、2024年度日本天文学会天文教育普及賞を授与する。